

【4-8 定性的システマティックレビュー】

CQ	CQ1	非浸潤性乳管癌に対する非切除は勧められるか？
P	組織学的に診断された非浸潤性乳管癌症例	
I	非切除	
C	切除	
臨床的文脈		
O1	全生存率(5年)に影響はない(益)	
非直接性のまとめ	比較なく、単一群で症例集積一編のみであり大きいとみなす。	
バイアスリスクのまとめ	比較なく、単一群で症例集積一編のみであり大きいとみなす。	
非一貫性その他のまとめ	比較なく、単一群で症例集積一編のみであり大きいとみなす。	
コメント	全生存率について言及した論文は症例集積2編、big dataを用いた後ろ向きコホートの1編、前2本については、良性と診断されのちに病理レビューによって非浸潤性乳管癌と診断された症例の追跡結果の記載があるが、死亡時期の記載があるのみ、コホート研究では全生存率は示されている。いくつかのリミテーションを有する研究であるが、非浸潤性乳管癌非切除症例について、低グレード非浸潤性乳管癌のみに限局すると非切除/切除群でOSに差がないことを有意差をもって示した。	
O2	乳癌死亡率に影響はない(益)	
非直接性のまとめ	比較なく、単一群で症例集積一編のみであり大きいとみなす。	
バイアスリスクのまとめ	比較なく、単一群で症例集積一編のみであり大きいとみなす。	
非一貫性その他のまとめ	比較なく、単一群で症例集積一編のみであり大きいとみなす。	
コメント	全生存率について言及した論文は症例集積2編、big dataを用いた後ろ向きコホートの1編、前2本については、良性と診断されのちに病理レビューによって非浸潤性乳管癌と診断された症例の追跡結果の記載があるが、死亡時期の記載があるのみ、コホート研究では全生存率は示されている。いくつかのリミテーションを有する研究であるが、非浸潤性乳管癌非切除症例について、低グレード非浸潤性乳管癌のみに限局すると非切除/切除群でOSに差がないことを有意差をもって示した。	
O3	乳房内浸潤癌への進行のリスクが高くなる(害)	
非直接性のまとめ	比較なく、単一群で症例集積一編のみであり大きいとみなす。	
バイアスリスクのまとめ	比較なく、単一群で症例集積一編のみであり大きいとみなす。	
非一貫性その他のまとめ	比較なく、単一群で症例集積一編のみであり大きいとみなす。	
コメント	切除(摘出生検)のみを実施し、追加切除なし(非切除)とした群の観察を行った後ろ向き症例集積が6編、観察期間、浸潤癌診断時期はさまざまである。非浸潤性乳管癌を非切除で観察した場合4-53%が浸潤癌を再発した。観察期間は1-42年	
O4	同側乳房異時性乳癌発生リスクが高くなる(害)	
非直接性のまとめ		
バイアスリスクのまとめ		
非一貫性その他のまとめ		
コメント	論文なし	
O5	切除+RTに伴う二次発癌が抑制される(益)	
非直接性のまとめ		
バイアスリスクのまとめ		
非一貫性その他のまとめ		
コメント	論文なし	
O6	乳房切除によるQOLの低下が抑制される(益)	
非直接性のまとめ		
バイアスリスクのまとめ		
非一貫性その他のまとめ		
コメント	論文なし、アウトカムを設定した際に益となる因子を探して設けたが、評価不可能、論文なし	
O7	術後あるいは同時性乳房再建の必要性の減少(益)	
非直接性のまとめ		
バイアスリスクのまとめ		
非一貫性その他のまとめ		
コメント	論文なし、アウトカムを設定した際に益となる因子を探して設けたが、評価不可能、論文なし	
O8	要経過観察、定期的な診察(害)	
非直接性のまとめ		
バイアスリスクのまとめ		
非一貫性その他のまとめ		
コメント	論文なし、アウトカムを設定した際に益となる因子を探して設けたが、評価不可能、論文なし	
O9	CNBの信憑性(浸潤癌過小評価の可能性)(害)	
非直接性のまとめ	52studyのレビューで、すべて記載があるわけではないため中/不明とみなす	
バイアスリスクのまとめ	52studyのレビューで、初回診断方法の記載がないため、大きいとみなす	
非一貫性その他のまとめ	52studyのレビューで、初回診断方法の記載がないため、大きいとみなす	
コメント	52論文のレビュー、CNBにてDCISと診断された52study、7350例の検討結果から、浸潤性乳管癌であるにもかかわらず非浸潤性乳管癌と過小評価された症例は26%(18.6-37.2%)である。過小評価のリスクとして11G針ではなく14G針を用いたCNB、high grade症例、20mm以上の病変があげられた。不適切な針生検・診断では、そのもも非浸潤性乳管癌の診断が不可能であることが示されていた。	
10	(非切除となるので)コストがかからない(益)	
非直接性のまとめ		
バイアスリスクのまとめ		
非一貫性その他のまとめ		
コメント	比較した論文はないが、乳癌手術においては総額でおよそ75-100万円(3割負担の場合 23-30万円)の費用が生じ、さらに公的保険が適用されない入院中の食事代や差額ベッド代などの諸費用が別にかかるため、非手術となるとこの分のコストがかからない(益)	
11	剖検例からみたDCIS、担癌状態で生涯を終える可能性について(益)	
非直接性のまとめ	非浸潤性乳癌と診断されなかった例を対象としているため、大きいとみなす	
バイアスリスクのまとめ	非浸潤性乳癌と診断されなかった例を対象としているため、大きいとみなす	
非一貫性その他のまとめ	個々のstudyがどのような手法で非浸潤性乳癌と診断したがばらつきがあるため、大きいとみなす	
コメント	死亡時乳癌と診断(認識)されていなかった女性の乳房に浸潤癌、非浸潤癌が存在する割合をまとめたレビュー、1973-1987年に報告された7施設からの7dataをまとめたレビュー、1.3%の女性が浸潤癌を、8.9%(0-14.7%)の女性が非浸潤性乳管癌を有していた。検討した女性、乳房の検索サンプル数は各施設により異なるが、少なからず、死因に影響をしない乳癌担癌状態の女性は相当数いることが示された。	